

雌阿寒岳

1 概況

ポンマチネシリ 96-1 火口では高温の状態が継続していますが噴出の勢いは引き続き弱く、その他の火口・地熱域にも特に変化はありません。また、顕著な地震増加もありませんでした。

2 地震活動の状況

地震回数は1日あたり0~8回で推移し、顕著な増加はありませんでした。震源はポンマチネシリ火口直下の浅いところと推定されます。

月別地震・微動回数 (B点)

2002~2003年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数	25	34	21	20	39	204	83	223	375	163	155	113
微動回数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

3 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は火口上 100m程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

4 調査観測の結果

12~20日に実施した調査観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口などの噴煙や地熱活動の状況に変化は認められませんでした。

【ポンマチネシリ火口】

・ 96-1 火口

赤外放射温度計*により、北側火口縁から測定した火口底の最高温度は 409 (測定距離 50m) と高温を維持していますが、噴出の勢いは引き続き弱い状態です。

・ 赤沼西方噴気孔

噴気量は少ない状態ですが、明瞭な噴気音を伴い勢いよく噴出しています。噴気の状態や周辺の地熱域の広がりなどに変化はありません。

・ その他の火口

沸点程度の地熱活動が続いており、地熱分布にも変化はありません。

【中マチネシリ火口】

悪天のため観測できませんでした。



北側から見たポンマチネシリ 96-1 火口底
(2003年7月19日)



雌阿寒岳火口周辺図



東側から見たポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙、手前は第 1 火口 (2003 年 7 月 18 日)

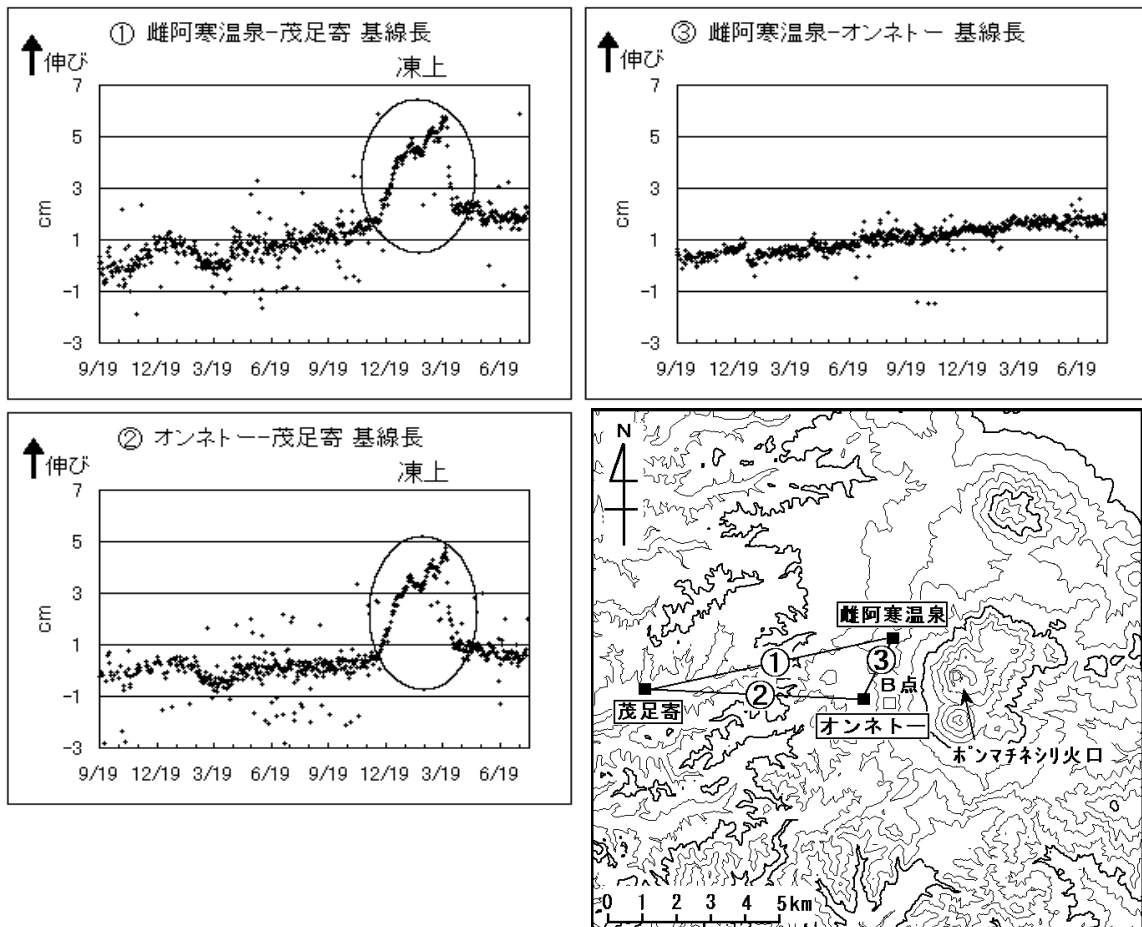


東側から見た赤沼西方噴気孔 (2003 年 7 月 18 日)

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率 0.9 ~ 1.0 に設定しています。

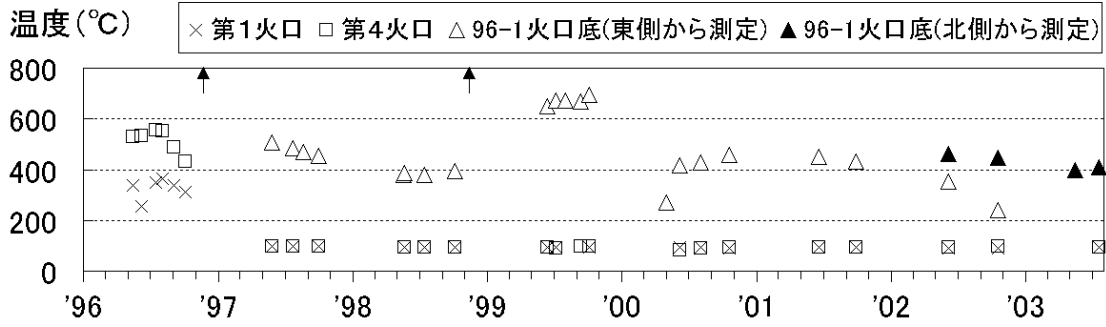
5 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません(図中 で示した変化は、茂足寄観測点の凍上による)。

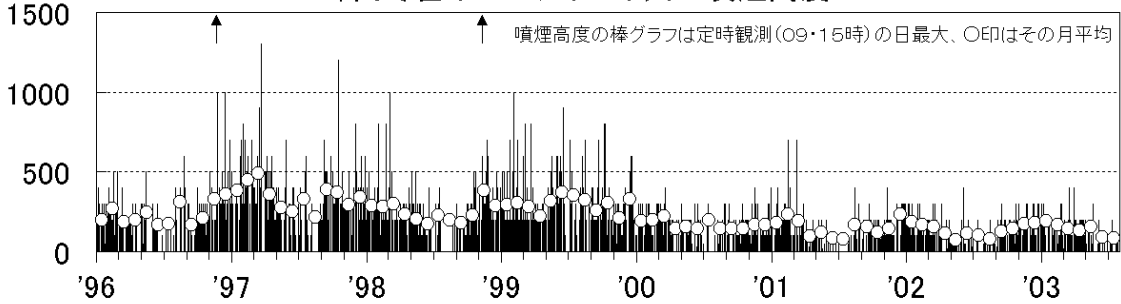


雌阿寒岳基線長変化(2001 年 9 月 19 日 ~ 2003 年 7 月 31 日)

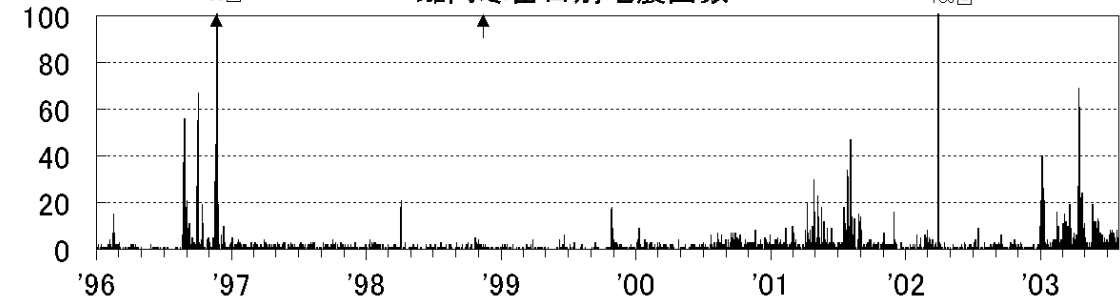
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



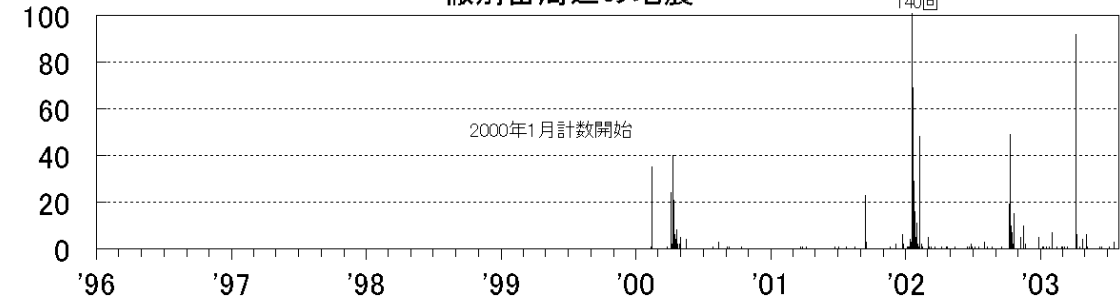
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



雌阿寒岳日別地震回数



徹別岳周辺の地震



雌阿寒岳火山活動経過図(日別、1996年1月1日~2003年7月31日) 印は噴火